

# シラバス

教 科	科 目	単 位 数	学 年	コ ー ス	組
芸 術	音楽 I	2	1	音楽選択	4.5.6.7.8.9.10

教科書	Tutti+ 音楽 I (教育出版)	副教材	

科目の目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、豊かな情操を培う。
-------	---

科目の概要	音楽実技（ウクレレやリコーダーの演奏・歌唱・リズム打ち）を通し、読譜力や表現力を身に付け演奏技術を高める。 音名，調，音程，コードなど段階的に基礎的な音楽理論を学び，将来の音楽生活を豊かにする。 西洋音楽史は，時代順に鑑賞しながら学びを深め，過去の偉大な作曲家による作品に触れて豊かな情操を養う。
-------	--

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ②「課題対応力」 ⑥「受信・発信力」	③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑩「自己実現力」	⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」
観 点 の 評 価	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け，歌唱，器楽，創作などで表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように表すかについて表現意図をもったり，音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽，音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評 価 の 方 法	・定期試験	・課題への取り組み ・実技試験 ・授業内の活動	・課題への取り組み ・活動への意欲 ・自主的な取り組み

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 ( 単 元 )	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	<p>(歌唱) 歌唱の導入として、校歌・応援歌を、練習する。</p> <p>(リズム) 基本になる音符を学習し、手拍子でリズム打ちの練習を行う。</p> <p>(器楽) 専用のウクレレを使用して基本的な奏法や指使いなどを習得する。 最初に楽器についての知識を学び、チューニングの方法を覚えてから音階と簡単なコード弾きを練習する。 (授業内にて実技試験)</p>	<p>(歌唱) 校歌・応援歌をしっかりと覚えて歌える。</p> <p>(リズム) 正確にリズムが読めて、リズム演奏が出来る。</p> <p>(器楽) ウクレレの基本的な知識と演奏技術を学ぶ。 また、曲中で使用するコードの運指を覚えて簡単な曲を1人で演奏出来るようになる。</p>
	<p>(音楽理論) 音楽の学習には欠かすことの出来ない、音楽の基礎的な知識として音楽理論の学習を行う。導入段階では、音名、調号と主音、調名について理解する。楽譜に対する理解を深める。</p> <p>(西洋音楽史) 古代・中世・ルネサンスの時代の音楽に触れ、音楽の起源を知る。 バロック時代の代表的な作曲家の作品を鑑賞し、各時代や作曲家の特徴を感じ取る。 【1学期 期末試験】 7月1日～5日</p>	<p>(音楽理論) 音名、調号と主音、調名の学習をすることで楽譜上における基本的な知識を獲得する。 音符に対する知識を習得する。</p> <p>(西洋音楽史) 鑑賞を通して時代や作曲家による作品の違いを感じ取り、音楽史に興味を持つきっかけにする。</p>
2 学 期	<p>(器楽) リコーダーの歴史や基本的な奏法を学び、簡単な曲を練習する。 授業では、運指などの練習を行い、二重奏を演奏する。 ウクレレで演奏できるコードの種類を広げていく。また、メロディー演奏を行えるように練習し、ウクレレ合奏を行う。</p> <p>(歌唱) 簡単な曲の階名唱を行うことで、長調・短調を理解する。 二部合唱を練習し、ハーモニーを感じながら歌う。 (授業内にて実技試験)</p>	<p>(器楽) リコーダーの仕組みを理解し、運指を覚えて、簡単な曲を二重奏で演奏出来るようになる。 ウクレレで、演奏できるレパートリーを増やす。 ウクレレを使って合奏を楽しむことが出来る。</p> <p>(歌唱) 新しい曲をすぐに、階名唱で歌うことが出来る。 (実技試験) 練習の成果を人前で発表出来る。</p>
	<p>(音楽理論) 音程についての基礎的な知識を学び、すべての音程を理解して、自由に音程を作ることが出来るようになる。</p> <p>(西洋音楽史) 古典派、ロマン派及び、国民楽派の代表的な作曲家の作品を鑑賞する。各時代や作曲家の特徴を感じ取り、数多くの作品に触れる。 【2学期 期末試験】 12月2日～6日</p>	<p>(音楽理論) 音程について理解し、音程名が判断出来る。 自分で音程を自由に作ることが出来る。</p> <p>(西洋音楽史) 作品を鑑賞する中で、時代背景を感じ取る。 一般教養として知っておくべき代表的な作品に触れることで、知識を高める。</p>
3 学 期	<p>(歌唱) 混声合唱を行い、ハーモニーだけでなく、様々な表現力を養う。</p> <p>(器楽) ウクレレ演奏によるレパートリーを広げ、ウクレレソロ演奏に挑む。</p> <p>(西洋音楽史) 印象派及び、近代・現代の作曲家や邦人の作品を鑑賞する。</p> <p>(音楽理論) コード記号について基礎的な知識を学び、コードを扱えるようになる。 (授業内にて実技試験) 【3学期 学年末試験】 3月4日～8日</p>	<p>(歌唱) 合唱の美しさや、表現することの楽しさを味わう。</p> <p>(器楽) 演奏の楽しさや、技術向上の達成感を味わう。</p> <p>(西洋音楽史) 印象派や近現代の作曲家の作品を理解する。</p> <p>(音楽理論) 幅広い音楽への興味を広げるきっかけを養う。</p>